

令和7年度 第2回久留米市地方創生総合戦略推進会議<議事要旨>

1 開催日時

令和8年1月13日（火）10:30～12:00

2 会場

久留米市本庁舎 9階レクチャールーム

3 出席者

座 長：前田 俊文 委員

副座長：清水 啓介 委員

委 員：14名（代理出席含）

豊福貴紀氏（笠智宣委員代理）、田村 哲 委員、小田 まり子 委員、
首藤 有一 委員、樋口 由香 委員、入江 剛史 委員、栗山 扶美香 委員、
堀田 富子 委員、福田 桂子 委員、佐藤 有里子 委員、田中 美智子 委員、
伊藤 慎二 委員

4 欠席者

委 員：1名

川崎 欣之 委員

【議事次第】

1 開 会

2 協議事項

第3期久留米市地方創生総合戦略案について

3 その他

4 閉 会

1 開会

■事務局（深堀創生戦略推進室長）

ただいまより令和7年度第1回久留米市地方創生総合戦略推進会議を開会する。

この後の進行は、座長の橋本副市長にお願いする。

■前田座長

まず、本日の会議については、公開を前提としており、会議の議事録についても公開したいと考えている。録音、写真撮影について委員の皆さまのご了承をいただきたい。よろしくお願いします。（一同了承）

2 協議事項

■前田座長

それでは、次第に基づき進める。

次第の「2 議事 第3期久留米市地方創生総合戦略（案）」について、事務局より説明をお願いする。

■事務局（大久保創生戦略推進室政策調整官）

※「第3期久留米市地方創生総合戦略（案）」について、資料に基づき説明。

■前田座長

ご質問等あればお願いします。

○堀田富子委員（久留米男女平等推進ネットワーク）

5点意見を述べる。

第3期総合戦略案は第2期に比べ「久留米らしさ」が感じられず、特に頻出する「魅力」という語句を具体的に示すべきではないか。資料3の8Pには「企業の魅力」と記載があるが、久留米市の高齢者雇用や障害者雇用、仕事と家庭の両立支援を行う優良事業者の表彰などを入れてはどうか。また、16Pの「文化芸術・スポーツ」については、第2期では、久留米シティプラザや久留米市美術館、文化センターなどの名称を挙げている。現在行われている文化センターの「光のミュージアム」も好評であるので、こうした具体例を通じて「魅力」の表現をより明確にしてほしい。

2点目、8Pの「①多様な人材確保のための雇用就労の促進」では、女性に選ばれる雇用の場の実現が重要。久留米市が男女平等や賃金格差解消、男女共同参画の観点から施策に取り組む必要がある。この点で、雇用の場における「男女平等の推進」、または「男女平等の環境づくり」といった表現を追加することが望ましい。

3点目、9Pの「ハード・ソフト両面からの災害対策の推進」では、ハード面の災害対策には感謝しているが、今後はソフト面として地域の人と人、行政との繋がりのため、対話を重視にした地域づくりが求められている。

4 点目、国全体でジェンダー主流化が進められているため、11P にジェンダー平等の推進が盛り込まれたことは評価するが、「女性参画の環境づくり」は、「女性参画の推進」とするべきではないか。また、「固定的性別役割分担意識の解消」について、現状では家庭や地域にその意識が残っており、意識の解消とともに家庭や地域におけるジェンダー平等の促進が必要である。

最後に、12P の「③未来につながる教育の推進」では、ICT の活用に伴う読書離れや活字離れを懸念している。この点は「ICT や読書、または図書館とか図書室の活用した協働的な学び」といった表現を追加することが望ましい。

■事務局（大久保創生戦略推進室政策調整官）

今回の計画策定にあたり、できる限り省略しつつも伝わりやすい内容としているため、抽象的になっている面もある。施設名称の追加など、久留米らしさとして反映できる部分については見直しを行う。

2 点目については、11P にも記載していたところではあるが、もし分かりづらいところがあれば修正する。

3 点目については、確かにハード対策には限界があるため、ソフト対策として地域の人と人が繋がり重要である。「地域の防災人材の育成と自主防災活動の活性化」として記載している内容や、今回力を入れている独自避難所については、地域の方々と意見交換しながら被害を最小限に抑える取組を進めていきたい。

4 点目については、環境づくりや推進、促進など、言葉の使い分けについて見直しを行う。

5 点目の読書離れについて、久留米市では読書活動推進計画を策定しており、読書の重要性は認識している。ICT 推進とのバランスを考慮して検討する。

○福田桂子委員（NPO 法人 子育て支援ボランティアくるるんるん）

人口展望に外国人は含まれているか。

また、主な施策として「正源氏公園の整備」が挙げられているが、理由を伺いたい。文化的な視点を考慮した公園整備を進めてほしい。

■事務局（大久保創生戦略推進室政策調整官）

人口展望に外国人も含まれている。但し、今後の推移については、国の政策に注目しておく必要がある。

■事務局（吉原創生戦略推進室政策調整官）

正源氏公園は 35ha と市内最大級の公園である。求心力を備えた公園整備により、久留米市の目玉となることを期待している、重要な史跡等もあるので、それらを活かしながら進めていきたい。

○入江剛史委員（西日本新聞社）

具体性がなく、久留米市の目標へのアプローチ方法が不明確である。

総合計画の関連性として、指標は総合計画の数値と揃えていくのか。

次に、KPIとして「一般刑法犯認知件数」や「地価」を設定されているが、行政の目標として疑問である。また、市民意識調査を多くKPIに設定することについても疑問がある。

最後に「担い手への農地集積率」は横ばいの目標となっているが、設定理由が伝わりにくいのではないかな。

■事務局（大久保創生戦略推進室政策調整官）

計画の具体性を見直し、不足部分は年度ごとの予算で取組を打ち出していきたい。

指標については、最上位計画の総合計画と地方創生総合戦略のKPIの数値を一致させる予定である。

「一般刑法犯認知件数」は、資料3の9Pの「②生活安全対策の充実」のとおり、セーフコミュニティ活動や市民や事業所、地域との協働による防犯活動の成果として設定している。「地価」は、JR久留米駅付近のタワーマンション建設や西鉄久留米駅周辺の再開発構想に基づくものとして、今回は「地価」を新たに設定している。

次に市民意識調査の項目が多い点については、第2期総合戦略ではアウトプット指標を多く設定していたが、第3期総合戦略ではアウトカム指標を重視している。総合計画の事業計画の中で事業ごとにKPIを設定しており、総合戦略では総合計画と合わせて事業評価をしていきたい。

「担い手への農地集積率」については、久留米市が県や国に比較して既に集積が進んでいる状況でいるため、維持を目指す目標値設定としている。

○清水啓介副座長（久留米市校区まちづくり連絡協議会）

資料3の7Pの広域連携中枢都市圏については、その範囲について注釈を入れたほうが良い。

鳥栖市や三養基郡などの佐賀県側の近隣自治体からの通勤者も多く、そちらとの連携も考えていくべきではないかな。

■事務局（坂田創生戦略推進室政策調整官）

広域連携中枢都市圏のエリアとしては、久留米市、大川市、小郡市、うきは市、大刀洗町、大木町の6自治体であり、加筆して示したい。

ご意見のとおり、その他周辺自治体からの通勤者・通学者も多く、鳥栖市などとは別の関わり方で連携している。

○樋口由香（連合福岡北筑後地域協議会）

久留米市といえば「食」であり、地場産の食材が給食で出ると子供たちも喜んでい

る。農業関係のイベントを通じて、魅力を発信できると良い

先日の成人式では、中学校で不登校だった生徒が顔を見せてくれた。映像の仕事を見つけ東京に行ったが、久留米の小学校時代が楽しかったからと戻ってきたのは、久留米市の人権学習や総合学習などの成果であると考えている。

また、歴史遺産の活用が地域活性化に繋がることを期待している

久留米市では教育での ICT 活用に多額の予算をかけて進めているが、1 年生の子どもたちが会話能力や書く力、本を読む力を身に着けていない中で ICT 活用が進むのは課題である。

子どもと若者の居場所づくりについては、西鉄くるめ駅周辺が賑やかになることは、子どもたちにとっても素敵なことであると思うが、文化センターのように文化的なまちづくりのために教育施設や相談場所、医療施設が必要だと考えている。

■事務局（大久保創生戦略推進室政策調整官）

ご提案いただいた点は、具体的な取り組み中の参考とさせていただく。

○田村哲委員（久留米市農業協同組合）

私たち J A くるめは、現在 3 つの JA の合併協議を進めているが、組合員の方から同様に具体性がないとの指摘を受けている。その中で私たちは農業の販売高を県下一にすることを最重要項目に取り組んでいる。

総合戦略においても、重要項目について具体的な記述があればよいと考える。

○豊福貴紀氏（久留米商工会議所）

中心市街地の活性化に関して、商工会議所で通行量を調査している。商店街の数値は年々減少しており、5 年後に 1 割増加させるのは難しいと感じているが、引き続き協力して取り組んでいきたい。

○首藤有一委員（（一社）久留米銀行協会）

市役所自体がより魅力的でやりがいを感じられる職場になっていただきたい。そのことが、魅力ある企業の誘致や育成にもつながると考える。

■事務局（深堀創生戦略推進室長）

魅力的なまちをつくるには、久留米市の職員が、そうやりたいと思えるような職場環境づくりが大切だと考えている。若い人たちの定着も課題であるが、全国同様久留米市役所への受験者数もここ数年減少している現状を改善する努力を続けていきます。

■前田座長（高等教育コンソーシアム久留米）

大学の立場から、若者を確保だけでなく、どのように活躍してもらうのが大切で

ある。

久留米市は高等教育コンソーシアム久留米という4つの高等教育機関連合体があり、若者がたくさんいる。地域貢献したいという学生も多いので、そういう学生を活用できるように久留米市と連携しながら知恵を出し合っていきたい。

この総合戦略において産学官連携の言葉は出てくるが、大学に期待する具体的な役割が明記されていない。例えばプロモーション、観光、イベント、産業振興の分野で貢献できる要素を秘めている。大学側としても受け皿づくりを積極的に進めたいと考えているので、大学が持っている潜在能力を活用していくことを戦略中に盛り込んでいただきたい。

○小田まり子委員（久留米工業大学 AI 応用研究所）

久留米工業大学の学生に業務委託による経済的支援をしてもらいながら、久留米市役所の DX 化を図るという取組が、今年から始まっている。

久留米市の産業が活性化し DX 化が進むことで、若者が都会に出なくても久留米市でやりがいや働きがいのある仕事を見つけ、久留米に住むという可能性も出てくると考えられるので、そういった形での産学官民連携が出来れば良い。

1 つ気になっている KPI は「地域の交流活動へ参加した外国人の数」である。多くの指標が%で設定される中、実人数となっている。どのような理由か教えてほしい。

■事務局（深堀創生戦略推進室長）

KPI の設定方法は、割合と実数の双方があり、KPI ごとに個別に判断している。

外国人に関する取組として、地域の交流活動を北野町の各校区で開催されており、その地域に住む外国人との交流が進められている。それぞれの文化の違いなどを理解し、多文化共生に繋げるという取組である。他の校区への活動の拡大できるのか、実際に住む外国人の正確なカウントが出来ているのかといった点を考慮し、今回は実人数で設定している。

○伊藤慎二委員（オガワ機工株式会社）

先ほどからの具体性がないという指摘に同意する。

若者という言葉が多く使われているが、実際の人口動態を考えると、20 代前半から半ばを対象とするのは、難しいかもしれない。一方で 30 代以降は転入超過の傾向があるため、ここにターゲットを絞って重点的にケアしていくような戦略としても良いと考える。

■事務局（大久保創生戦略推進室政策調整官）

データによると、久留米市の若者は 20 代に就職で福岡都市圏に転出している。また、自衛隊の出入りも大きく影響している。この動きを止めるのは現実的ではないため、現在の久留米市が強みとして持っている 30 代以降に手厚く政策を打つことが重

要であると認識しており、今後も検討していきたい。

○佐藤有里子委員（（株）キャリアリード）

正月休みに転勤の多い親族が久留米に初めて訪れ、とても高評価であった。文化センターの「光のミュージアム」にも皆感動していた。こうした体験をする機会を増やすことは大切であり、子育て世代にも魅力的である。

教育を充実していくことも重要である。NPOとして子育てを支援していく中で、引きこもりの問題をサポートしていく必要があると考えている。また、久留米市内にバイリンガルや英語で授業する学校は無いのですかという質問を多く受けてきた。福岡の県南で、選択肢となるバイリンガル教育を行う学校を増やしてほしいという声が多くある。

○栗山扶美香委員（福岡県弁護士会筑後部会）

弱者の視点として、女性や高齢者、障害者、外国人は、記載されているので、あとは具体的に取り組んでもらいたい。

また、刑法犯については、体感としても犯罪が増えていると感じられる一方で、地方では弁護士の登録も少なく、一人一人の負担が大きくなっていることもあり、地域づくりの重要性を感じている。

■前田座長

他にないか。（特になし）

それでは、「その他」について事務局より説明をお願いします。

3 その他

■事務局（大久保創生戦略推進室政策調整官）

※資料に記載された今後のスケジュールについて説明。

■前田座長

全体を通して、ご意見等はないか。（特になし）

それでは、進行を事務局に戻す。

4 閉会

■事務局（深堀創生戦略推進室長）

以上をもって、令和7年度第2回久留米市地方創生総合戦略検推進会議を終了する。
本日はありがとうございました。

以 上